

---

**所 報**

---

## 1. 研究室活動報告

(1972年1月～1973年3月)

### A. 教育哲学研究室

#### a. 教育哲学

日高第四郎教授（客員教授）

前年度に引き続き大学院において、「教育基本法」の諸問題、および日本における教育行政に関する講義を担当した。

小島軍造教授（客員教授）

大学院において、プラグマティズムの教育哲学、および社会哲学に関する講義と演習を担当した。1972年10月6日、7日の両日、上智大学において行なわれた教育哲学会第15回大会に参加し、一部分の司会を担当した。

金子武蔵教授（大学院教授）

大学院において、西洋近代思想の講義および演習（ヘーゲル）を担当した。

編著として『価値』（理想社、1972年10月）、論文集として『フロイデイズム—無意識と意識』（清水弘文堂、1973年3月）を刊行した。

讃岐和家教授

ドイツ観念論とくにヘーゲルの教育思想の研究を前年に引き続き行なった。1972年10月28日、29日の両日、福井大学で行なわれた日本デューイ学会第16回大会のシンポジウム「デューイの教育的価値論の検討」に代表質問者の一人として参加した。

なお、1972年3月、学生部長職を任期満了により退任。同年4月2日より15日まで文部省の依頼を受けて海外に出張し、フランス、西ドイツ、イギリス、およびアメリカの主要な大学7校を訪ね、学生の厚生補導関係の施設を視察した。また、同年10月3日4日5日に石川県羽咋市で行なわれた第10回全国厚生補導研究集会のシンポジウム「大学における厚生補導のあり方」に発題者の一人として参加、同年10月および11月に3回にわたって行なわれた「民主教育協会」主催の「学生生活研究セミナー」に実行委員の一人として参加した。

川瀬謙一郎準教授

前年度に引き続き、マックス・ウェーバーを手掛りとして教育における理想的人間像とその社会的基盤との関係に関する研究を行なった。1972年3月、学生部副部長職を任期満了により退任。同年4月、教育学科長・教育研究所長に任命された。

大学セミナーハウスにおける「大学教員懇談会」に引続き参加。前年にひきつづき科学研究費助成による総合研究「現代アメリカ思想の倫理学的基礎」に分担者として参加。

#### 磯田 助教授

前年度にひきつづき文部省科研費による共同研究、「教授理論史研究」のうち「活動主義」の部門を担当している。それと現在行なわれている教授学や生活指導との関連の探求に関心を持っている。また今年度より国立教育研究所の「教育課程の改善に関する基礎的研究」（特別研究・4年間継続予定）の研究協力委員を委嘱されている。

1972年9月に開かれた日本教育分法学会（京都教育大学）及び日本教育学会（京都大学）に出席。各地の小前授で開かれた授業の実践的研究に数回参加。

執筆論文：「新教育における活動主義の概念」（細谷俊夫編『学校教育学の基本問題』1973年4月，評編社）

「解説」『野村芳兵衛著作集，第1巻，生命信順の修身新教授法』，黎明書房，印刷中）

その他『民間教育史研究事典』（評論社より刊行予定）を約10項目寄稿。

#### b. キリスト教教育哲学

##### 中川秀恭教授

大学院において，キリスト教人間学を始めとする講義を担当した。

##### 論文

##### 1. 現代におけるキリスト教の根本的問題

宗教研究 213号，昭48. 2月

##### 2. 新約聖書における死の理解

聖書と教会 1973. 3月

##### 3. 学生生活について

国際基督教大学学生部発行

研究発表 1972. 5月

##### 1. 神学的思惟における仮説的性格

日本組織神学の会 1972. 10月。

#### c. 教育思想史

##### 長 清子教授

1972年8月，オランダのユトレヒト（Utrecht）において開催された「世界教会協議会」（WCC）常任委員会および中央委員会に出席した。また，1972年12月末より1973年1月上旬にかけて，タイのバンコクで開かれたWCCの世界会議「今日における救い」（Salvation Today），および同年1月，インドのバンガロアで開かれたWCC常任委員会に出席した。

1972年10月6日、7日の両日、上智大学において開かれた教育哲学会に出席、研究討議「現代世界における日本人と教育」（シンポジウム）に参加し、「“アジアの眼” でみた日本人」と題して発題した。

これは「教育哲学研究」等 27 号（1973 年 4 月）に掲載された。

#### 論 文

1. 「日本文化と個別性と普遍性—新渡戸稲造の思想をめぐって—」『独立教報』札幌、1972年6月。
2. 「新渡戸稲造—伝統的価値の革新と戦後民主主義の『根』—」（『日本人とキリスト教』小川圭治編、三省堂、1973年6月15日）。
3. 「民芸美の発見と柳宗悦—無銘の李朝陶磁器に触発されて—」（ICU『アジア研究』7 1973年5月）。著書『背教者の系譜—日本人とキリスト教—』（岩波書店、1973年6月23日）。

#### d. 比較教育学

ベン・C・デューク教授

下記の書物を刊行した。

Japan's Militant Teacher. A History of the Left-Wing Teacher's Movement, March 1973, East-West Center Press, Hawaii.

### B. 教育社会学研究室

原 喜美準教授

教育社会学研究は、社会学研究室において社会学の一部門として、教育学科と提携を保ちつつ行なっている。過去1年間の研究を整理、分類すると、次の2つの課題に集約される。

#### 1. 学生運動の国際比較研究

各国共通の教育的、社会事象として生起している学生運動の目標、成果、目標達成の為の手段、戦術などについて、アジアの五つの大学（韓国延世大学、タイ国チュラロンコン大学、インドネシア大学、フィリピン大学、国際基督教大学）において、学生たちがどのように評価しているかを調査した。この研究は Commission for Advancement of Higher Education in Asia の援助により、延世大学の3名の教授の学問的良心に貫ぬかれた、並々ならぬご努力により提案され、結実したものである。対象は学部学生 1 年～4 年 までを層化別無作為抽出により選び総数 1,151 名に対し面接を行なった。現在単純集計が届いており、過日中間報告も行なった。100 にも上る項目について一概に述べることは出来ないが、アジアの他の諸国と日本との違いは、日本の学生運動が、一般社会の民衆の意識から浮き上り、生活に密着していない傾向が顕著にあらわれている。

#### 2. 出稼ぎ家族の研究

社会学の社会調査の実習として、過去3年間、秋田県平鹿郡平鹿町の純農村において、出稼ぎをめぐる諸問題を研究して来た。営農意識、農業の近代化、合理化、出稼ぎ要因について調査を行こなうとともに、出稼ぎにより引き起される一時的母子家庭の人間関係、出稼ぎが子供におよぼす影響などについて関心をもつ学生と共に教育的側面について或程度の研究をまとめようとしている。

この他筆者が現在継続的に計画している研究に、大学卒業の女性の専門職継続指向に関するものがある。

### C. 教育心理学研究室

1971年4月よりフィリッピンのアテネオ・デ・マニラ大学へ出講していた都留教授が1972年1月に帰任した。同大学日本研究講座へは星野準教授が交替して7月まで出講した。

古畑準教授は4月に教授に昇任、9月から73年3月まで休暇をとった。

7月上旬八王子セミナーハウスで、ICU心理学セミナーが開かれ、都留・星野・原・深見・深谷ら研究室員と、学生約20名が参加した。原書講読を中心に学習が行なわれ、討議も盛んであった。

8月13—19日に東京で開催された第20回国際心理学会議には当研究室の教員全員が参加した。特別講演——梅津教授。「投映法に関する cross-cultural 研究」シンポジウム——星野教授。「心理学における過程と問題としての一貫性」シンポジウム——古畑教授。「動物と人間における弁別学習の機制」シンポジウム——原準教授のほか、都留教授も組織委員会の実行委員として活躍した。

また、2年前にICUで「異常心理学」を担当したヘルムート・P・モースバッハ博士は、国際心理学会議に出席したのち、ICUの秋学期において再び非常勤講師を勤めつつ、日本学術振興会のフェローシップにより、「青年の比較文化的研究」および「日本人の non-verbal communication の研究」に従事した。

当研究室に属する生理心理学動物飼育実験室（本館の北100米に所在）に対して、原準教授を通じて、米国のG.ハンター氏より再度 Dick-Hunter Memorial Fund の寄贈があり、自動式弁別学習装置ならびに諸種の実験器具を購入することができた。現在、猫10匹、鼠50匹前後、サル4匹を常時飼育しており、大学院院生・学部学生数名の協力を得て、主として視覚弁別学習の半球間転移の基礎的研究を進めている。

なお学部一年生有志数名によって Kilby-Morris の価値尺度を用いて“大学生の価値観の研究”の追試が行われた。

1973年4月、原準教授は教授に昇任。また教養学部副部長の職務を兼任することとなった。古畑教授は休暇から復帰、当研究室はフルメンバーで教育・研究に当ることになった。

## 梅津八三教授

### I 研究活動

「重複障害者の教育法に関する心理学的研究」（昭和47年度文部省科学試験研究費補助）の研究分担者として盲ろう者および盲精薄者の言語行動学習の基礎となる事象分化訓練とそれに関連する象徴的信号（身振りその他）による交信訓練の方法の開発にあたる。また、同上研究の代表者として、他の研究班をふくめた全体の総合にあたる。

### II 学会発表等

第20回国際心理学会議（The 20th International Congress of Psychology）の招待講演者として、下記の題目の特別講演をおこなう。

“Formation of Verbal Behavior of Deaf-blind Children”

## 都留春夫教授

### I 研究活動等

I P R（対人関係）研究会や日本カウンセリング協会での活動を通して、引きつづき、カウンセリング、センシティビティ・トレーニング、人間論などの実践と研究を続継している。1972年度の前期はY M C A 同盟の主事養成講座で「カウンセリング」、後期は青山学院の大学院で「社会心理学研究」の授業を担当した。

また、厚生省国立療養所幹部看護婦研修会、日本航空初級幹部カウンセリング研修会の講師をつとめた。

日本研究の関係では、国際交流基金の日本研究部の委嘱で「東南アジアにおける日本研究」の連絡委員をつとめている。

### II 学会発表等

1972年6月、日本相談学会（名古屋大学）に出席、シンポジウム「日本文化とカウンセリング」に発題者として参加した。

12月、学生相談研修会（国立教育会館）に運営委員として出席、シンポジウム「人間性回復と学生相談」の司会、演習「グループ・カウンセリング」の助言者をつとめた。

10月、日本教育心理学会に出席した。

また、国際心理学会議ではプログラム委員会の仕事を手伝った。

東京Y M C A、日本看護協会、公衆衛生院などで、カウンセリング、人間関係、教師論などについて、数回講義、講演をした。

### III 著作

「私のグループ経験」日本カウンセリング協会発行（N C A シリーズNo. 12）

「ナショナルリズムと日本研究—フィリピンの場合」国際基督教大学学報1—A教育研究、第16号

「人間の教育」教会教育第20巻第5号

## 「日本人らしさとカウンセリング」カウンセリング第4巻第2号

星野 命教授

## I 研究活動

- 1) アテネオ・デ・マニラ大学出講中に、また帰国後も、「青年の比較文化的考察の意義と方法」について文献研究を行なった。（津留 宏他編，青年心理学座第2巻第1章として1973年春，金子書房より公刊予定）
- 2) 7月27—29日，湯河原で開催された，基督教学校教育同盟関東地区カウンセリング研究会および8月5—9日，富山市で開催された日本カウンセリング協会主催のワークショップに「世話人」として参加し，カウンセリングおよび集団過程を観察，記録した。

## II 学会発表等

- 1) 1972年2月26・27両日，マニラ市において開催されたフィリピン心理学会第9回大会に臨時会員として出席した。帰国後の8月には東京において開催された第20回国際心理学会議のシンポジウムの一つ「投映法による比較文化的研究」に co-organizer および co-chairman として参加した。また，同会議会期中に，「ロールシャッハ法などをめぐる研究懇談会」を主催して，Dr. Raychaudhri (India)，(Dr. Fabrikant (U. S.)) らの研究を紹介するとともに，それらをめぐって約30名の国内の研究者とも懇談した。
- 2) 8月22—25日香港大学で開催された比較文化心理学会第1回国際会議に出席し，「異文化間研究将来計画」に関するシンポジウムに指定討論者として参加した。
- 3) 11月25—26両日，神戸で開催された日本社会心理学会第13回大会において「待遇表現としての悪態の異文化間研究」を発表した。（同大会論文集175—178頁所載。）

## III 著作・翻訳

- 1) 「臨床心理学」（詫摩武俊氏との共編著）新曜社発行。分担執筆：序章および5章。
- 2) 「性格は変えられるか」（詫摩武俊氏との共編著）有斐閣発行。分担執筆：1，3，4，5，7章。
- 3) 「ロールシャッハ研究XIV」（片口安史氏，空井健三氏との共編）牧書店発行。
- 4) バーロン，ジャーヴィク，バンネル「幻覚をおこす薬」別冊サイエンス心理学特集不「安の分析，p. 63～73（翻訳）
- 5) 「心理用語の基礎知識」（1973年，有斐閣刊行予定）分担執筆。担当項目：心誌，オルポートの性格理論，育児態度を規定する社会文化的条件，県民性の研究，国民性の研究，社会階層と性格，甘え理論ほか。
- 6) 「精神人類学へのコメント」季刊人類学3—3，133～139頁。

7)「人間形成と愛と性のしつけ」児童心理27巻1号, 1~16頁 金子書房。

8)「甘えと好奇心をめぐって」教育と医学, 21巻1号, 22~25頁, 慶応通信。

古畑和孝教授

## I 研究活動

1)「均衡理論」に関する基礎的研究を続けていたが, II.に記載の国際心理学会議のシンポジウムのひとつに, この主題に関するものがあり, 3名のスピーカーの一員として参加した。その後海外学者と種々研究情報の交換をしている。また, 約10名の同志と定期的に読書会を続け, 1972年9月には3泊4日の合宿研究会も行なった。

2) 文部省科学研究費による試験研究「道德性発達の心理学的基礎」(代表研究者・沢田慶輔立教大教授)の分担研究者の一員として参加, 「道德性と準拠集団の発達」に関する研究を続け, 準拠対象調査テスト, 道德性テストを試作し, その成果の一端は学会で報告した。

3) 教育場面における集団過程について研究してきたが, それと関連して, 埼玉県入間市教育委員会の委嘱で, 特別委員として, 現場の小中学校教師との各種研究会で, 指導・助言を行なっている。

4)「協同-競争」と対人態度との関連につき, 認知的均衡理論の枠組に基づき検討をしていたが, 次の段階の研究計画を立案した。

## II 学会発表等

1) 1972年8月(13日~19日), XXth International Congress of Psychology (於・東京プリンスホテル)におけるシンポジウム, SS-4 "Consistency as a process and problem in psychology" のスピーカーの1人として, "Cognitive consistency related to attitudinal aspects of mother-child relations" と題して発表した。(Abstract Guide. XXth ICP, pp. 222-223 所収)。

2) 1972年10月(12日~14日), 日本教育心理学会第14回総会(於・お茶の水女子大学)において, 「準拠集団と道德性の発達(第3報告)―道德性テスト作成の試み(II)―」と題して発表(同論文集, 88-89頁所収)。また, 「準拠対象としての友人の選択範囲の分析―準拠集団と道德性の発達(第2報告)」の連名者(発表者は深見敦子助手)。(同論文集, 180-181頁所収)。

3) 同上学会における「シンボルと集団」に関するシンポジウム(座長・島田一男聖心女子大教授)において, 話題提供者の1人として, 「集団論の立場から」発表した。(その要旨は, 「教育心理学年報(第12集)」に収録予定)。

## III 著作

1)「学級診断」沢田慶輔(編)「学校教育心理学」東京大学出版会, 1972, 263-279頁。

2)「協同への動機づけ」. 小口忠彦・早坂泰次郎(編)「動機づけの心理学」

明治図書, 1972, 309—323頁。

3) 「国際心理学会議からみた教育心理学の動向：研究法分野」, 「教育心理」1972, 20巻, 12号, 62—63頁。

4) 「児童・生徒理解の実践的方法——家族関係の観点から」, (司会・続 有恒) 「教育心理学年報」1972, 11集, 68—72頁に要旨収録。

5) 「均衡理論」, 松村康平・浅見千鶴子(編) 「児童学事典」光生館, 1972の中に所収。

6) 「学習」, 山下俊郎・沢田慶輔(編) 「教育心理学」光生館, 1973, 85—149頁。

### 原 一雄 準教授

#### I 研究活動

1) 学習の生理心理学的研究。(a)本学においては猫と鼠の視覚弁別反復逆転学習, (b)京都大学霊長類研究所においては赤毛ザルの学習セットの両眼間転移(昭和47年度共同研究として採択)を継続中。

2) 専売公社の委託調査“喫煙と疲労回復の研究”を体育科の協力を得て開始。

3) “大学生の価値観の研究”を学部一年生有志と共に継続中。

4) 民主教育協会共同研究“大学設置基準に関する総合調査”(代表研究者・東京工業大学慶伊富長教授)に分担研究員として参加。

#### II 学会発表等

1) 1972年4月 日本動物心理学会第32回大会(於・上智大学)において「社会的に隔離された若赤毛ザルの情動表出と皮質切除の影響」を口答発表。

2) 1972年8月 国際心理学会議第20回大会(於・東京プリンスホテル)におけるシンポジウム——ヒトと動物の弁別学習——にて「Stimulus characteristics and the interocular transfer of discrimination learning in the forebrain commissurectomized rhesus monkey」を発表(同大会 Abstract Guide 217～8頁所載)。

3) 1972年8月 日本心理学会第36回大会(於・大阪大学)において「サルの視覚弁別学習半球間転移における訓練後の前脳交連線維切離の影響」を発表(同論文集50～1頁所載)。

#### III 著作

1) 「比較行動学」, 「比較心理学」グラント現代百科事典 学習研究社 1972

2) 「大学教育の総合評価 その4 在学生・卒業生・教職員による学生生活の評価の比較研究」(中山和彦・星野悠子・岩瀬純一・土屋静子共著) ICU学報 I A : 教育研究 1972, 16, 35—54。

3) 「現代っ子のエゴイズムと愛他心」児童心理(金子書房) 1973, 27 (2), 68—73。



4) 「心理学の生物学的基礎 (19章)」 (詫摩武俊・大山 正共編) 心理学 新曜社 1973, 268—283。

#### 向井敦子助手

#### 研究活動など

1972年10月, 日本教育心理学会第14回総会 (お茶の水女子大学) において, 古畑和孝教授らと連名で, 「準拠対象としての友人の選択範囲の分析——準拠集団と道德性の発達 (第2報告)——」を口頭発表。「準拠集団と道德性の発達 (第3報告)——道德性テスト作成の試み (Ⅱ)——」を連名で発表。現在「準拠集団と道德性の発達」に関する研究を古畑和孝教授とともに継続して行なっている。

### C. 視聴覚教育研究室

視聴覚教育研究室に事務局をおく, 日本視聴覚教育学会の第9回大会が, 1972年8月30, 31日の両日, ICUのN館において開催され, 多数の学会員が出席した。篠遠学長のあいさつや, 学会会長の布留教授のあいさつおよび研究発表があり, 研究室の阿久津助教授がシンポジウムで提案発表し, 石本講師がパネルディスカッションに参加した。

1967年の夏から米国留学中の石本菅生氏が帰国し, 1972年5月, ICUに講師として着任した。

#### 布留武郎教授

#### I 研究活動

米国公衆衛生局長官を委員長とする科学諮問委員会の報告書「テレビジョンと社会行動」 (全5巻, 2,300頁) について検討。われわれの調査研究と比較するために, 先年都下三多摩地区で文部省助成金により実施したデータのうち, メディア暴力と関連する変数について多次元解析を行なった。生田・渡辺助手の協力に負うところが多い。

経済企画庁国民生活調査教育部会の委員として定期研究会に出席, 生涯教育とマスコミの問題について「利用と満足」の観点からわが国における過去10年間にわたる調査資料を整理し, 中間報告書として提出した。

1972年8月31日, 日本視聴覚教育第9回大会をICUにおいて開催した。

#### II 学会発表等

1) 1972年8月, 東京で開催された第20回国際心理学会自由討論集会において, 「テレビジョンと社会行動」のディスカッサントとして参加, 米国と日本における調査資料の比較研究についてペーパーを提出した。

2) 「テレビジョンと社会行動: 国際間比較」, 日本新聞学会, 1972年度・秋季研究発表会, 1972年10月。

#### III 著作・論文

1) "Television and children: A Study of the Effects of Television as a whole" ICU教育研究16, 1972年3月。

2) D. K. バーロ著「コミュニケーション・プロセス」(阿久津助教授と共訳) 協同出版, 1972年10月。

3) 「テレビジョンと社会行動: 国際間比較に関する一考察」, 視聴覚教育研究, 第5号, 1973年3月。

#### 中野照海準教授

中野準教授はユネスコの Department of school and Higher Education の中の Educational Technology Section のチーフとして, 1972年12月から赴任, 現在休職中である。

#### 阿久津喜弘助教授

#### I 学会発表等

(1) 「システム過程としての Two-way Communication」日本視聴覚教育学会第9回大会シンポジウム, 昭和47年8月。

(2) 「学級集団の変革過程と変革促進者」第24回日本教育社会学会大会課題研究, 昭和47年10月。

(3) 学会活動: 日本教育社会学会編集委員, 日本新聞学会研究委員および編集委員, 日本視聴覚教育学会常任理事および編集委員, 日本放送教育学会理事。

#### II 著作

(1) "The Importance of Interpersonal Communication in the Diffusion of News Events," 『ICU教育研究』16, 昭和47年3月, 55—63頁。

(2) 連載講座「学級について」『特別活動』5巻4号—9号, 昭和47年4月—9月。

i) 「学級における社会的コミュニケーション研究の背景」(4号, 60—63頁)

ii) 「学級における社会的コミュニケーションの量と型」(5号, 60—63頁)

iii) 「学級の集団構造と集団過程」(6号, 60—63頁)

iv) 「学級におけるリーダーシップ: リーダーシップ型」(7号, 60—63頁)

v) 「学級におけるリーダーシップ: 集団機能とリーダーシップ」(8号, 60—63頁)

vi) 「コミュニケーションの受け手集団としての学級」(9号, 60—63頁)

(3) 「映像マス・メディアの認識的機能」木原健太郎・多田俊文編『講座映像と認識I』明治図書, 昭和47年6月, 158—172頁。

(4) 「マス・コミュニケーションの教育機能」湯沢雅彦他編『社会学セミナー3: 家族・福祉・教育』有斐閣, 昭和47年9月, 357—366頁。

(5) 「社会工学と教育工学の関連」日本教育社会学会編『教育社会学の展開』東洋館, 昭和47年11月, 85—95頁。

(6) 「放送教育におけるシステム化の問題点」(提言)『放送教育』27巻2号, 昭和47年5月, 56—58頁。

(7) 「映像文化」海後宗臣他監修『教育経営事典』I, 帝国地方行政学会, 昭和47年11月, 64—65頁。

(8) D. K. バーロ『コミュニケーション・プロセス—社会行動の基礎理論』協同出版, 昭和47年12月, 384頁(布留武郎教授と共訳)。

#### 石本菅生講師

##### I 学 会

第9回日本視聴覚教育学会大会パネル・ディスカッション「教育工学の発展と教育工学センターの課題」にパネラーとして参加。

##### II 著 述

「教育工学の変遷とアメリカにおける教育メディア大学院プログラムの現況」『視聴覚教育研究 第5号』1973。

##### III その他の活動

1. 教育調査研究のためコンピューター・プログラムの整備・開発。
2. C A I 方式による情報処理教育教材の開発。

#### 生田孝至助手

I C U 大学院博士課程進学のため, 1972年3月退職, 非常勤助手となる。1973年3月にI C U を退職し, 4月から新潟大学教育学部の教官として赴任。

### D. 理科教育法研究室

#### 原島 鮮教授

##### I 研 究 活 動

1973年4月1日東京女子大学長に就任し, I C U 大学院教育研究科では非常勤講師として奉仕。

International Union of Pure and Applied Physics ≡ International Commission on Physics Education の委員継続。3月末, Paris の UNESCO Building での委員会に出席。

文部省科研費 特定研究 48年度 810117 コンピューターを利用した教育の基礎研究とソフトウェアの研究開発(研究費600万円)に従事, 特に man-machine dialogue とディスプレイ上の立体視による物理現象の映像化に重点をおく。

#### 三宅 彰教授

##### I 研 究 活 動

1) 鎖状分子の分子内束縛回転ポテンシャルが各回転角毎に独立ではないとき, 鎖の両端間距離の自乗平均を摂動計算で求めること。一般論としての形式的解法は既知であるが, これまで具体的に計算を進めた例がないので, 独立回転の場合を摂

動計算の出発点にとり計算を行った（理学科物理専修学生 浦周の卒業論文）。

2) エントロピーの概念が高松物理又は大学一般教育の教科内容の程度に適するか否かを調べること。

今日、エントロピーは統計熱力学だけでなく情報理論でも用いられているので、その異同を明らかにしたい。

大内謙一教授

### I 研究活動

核磁気共鳴法によるアミド分子のC—N結合の束縛回転についての研究を行なっている。

NMRによるトリフルオルアセトアミドのC—N結合の束縛回転の研究

日本化学会年会 4月1日 1972

NMRによるアセトアミドの結合の束縛回転

第11回NMR討論会 10月16日 1972

ジフルオロアセトアミド— $^{15}\text{N}$ のC—N結合の束縛回転

日本化学会年会 4月20日 1993

NMRによる Amides  $\text{RCO}^{15}\text{NH}_2$  の束縛回転

第72回NMR討論会 10月11日 1973

$^{13}\text{C}$  NMR の温度可変によるC—N束縛回転

第12回NMR討論会 10月11日 1973

Hindered Internal Rotation in [ $^{15}\text{N}$ ] Trifluoro-acetamid

J. Chem Soc., Parkin Trans. II, 771, 1973

ローランド・リッチ教授

### I 研究活動

Continuing development of a completely new scheme of qualitative analysis for most of the metals.

## 2. 大学院教育学研究科修士論文

(1972年卒業者)

1972年3月卒業者 8名

### A. 教育哲学 (4)

安積 力也 マハトマ・ガンジーに於ける内面的自己形成過程の研究

森田美千代 デューイ哲学における「目的」と「経験」との関連に関する一考察

鈴木 佳秀 捕囚期前 古代イスラエルに於けるレビびとなる祭司の活動に関

して一特にマックス・ウェーバー『古代ユダヤ教』に関する一考察

吉川ちひろ 人間形成の視角からのニーチェ理解の試み

**B. 教育心理学 (2)**

佐々木由利子 問題状況における行動のし方に関する治療者の態度についての研究

苫米地憲昭 ロールシャッハテストの信頼性の研究 催眠健忘を用いて

**C. 英語教育法 (1)**

江沢 哲也 A Study of the Copula *BE* in Somerset Maugham's *OF HUMAN BONDAGE*: S+BE+Propositional Phrase

**D. 理科教育法**

植山 祥子 タンパク質の生物物理学的研究とその教育への導入

**1972年6月卒業生 7名**

**A. 教育哲学**

北川 治男 Dewey の認識哲学における認識と経験の関係に関する一考察  
——Bollnow の視点を手がかりとして——

**B. 教育心理学**

Milonas, George T. Retroactive Interference in Meaningful Verbal Learning

**C. 視聴覚教育法**

町田 喜義 LL 学習の効果に関する実験的研究

**D. 英語教育法**

茅野 友子 A Study of 'Love's Labour's Lost'

及川 玲子 A Study of For-To Complements of Psychological Predicates

鈴木由紀子 The Style of Emily Dickinson's Poetry

上村 弘子 A Proposal for Improving Senior High School English Teaching

### 3. 教 育 実 習 報 告

**(1972年度分)**

1972年度教育実習は大学院生を含む46名(都の受入れ承認は27名)の学生が参加した。都の受け入れにもれた20名の学生の実習校の確保には、毎年頭を痛めて来たことではあるが、今年度は一段と深刻な問題となった。2月に都の承認数が発表された後、極力実習生母校の開拓を計り本年は静岡県に母校を持つ者にまで許可せざる

を得なくなつた。また昨年まで協力を得ていた学校の中にも先方の事情により実習受け入れが不可能となつた学校もあって困難な状況に追い込まれたが、幸い清水先生のご奔走により成蹊中高において5名を受け入れて頂き、ようやく全員の実習が可能になった次第である。誠に薄氷をふむ思いであつた。法令改正にもとづく一般教育科目の大学卒業必要単位と免許状取得に必要な単位数との差が生じたことは、本年度は實際上あまり影響しなかった。

5月22日の日大鶴ヶ丘高校を皮切りに実に11月6日まで、実習受け入れ校の実情に合わせて半年に亘って実習が行われた。その実情は下記の通りである。

### 1. 実習生総数 46 (男11, 女35)

### 2. 実習日程

5月22日～6月3日 (日大鶴ヶ丘高校)

5月29日～6月10日 (千葉県立多古高校)

6月5日～6月17日 (三鷹一中, 五中, 成蹊中, 高, 秋川高校, 埼玉県立浦和第一女子高校, 静岡大教育学部付属島田中)

6月12日～6月24日 (静岡英和女学院中, 東洋英和女学院中, 品川区立日野中)

6月19日～7月1日 (聖心女子学院)

9月4日～9月16日 (木更津第三中, 明星学園中)

9月18日～9月30日 (大宮北中)

9月25日～10月7日 (小金井東中)

10月2日～10月14日 (三鷹高校, 三鷹二中, 三中, 板橋区立一中)

10月23日～11月6日 (千葉県葛城中)

### 3. 実習配当校

実習校 教科	三鷹高校	三鷹一中	三鷹二中	三鷹三中	三鷹五中	小金井東中	成蹊中高	静岡英和	千葉多古高	聖心女子学院	浦和第一女高	東洋英和	品川日野中	日大鶴ヶ丘高	木更津第三中	静岡大付島田中	板橋第一中	秋川高	明星学園	大宮北中	葛城中	合計
英語	4	5		4	4	2	5	1	1		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	36
社会		2	2		1	1				1		1										8
理科			1		1																	2
計	4	7	3	4	6	3	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	46

1973年3月卒業生219名中、教育職員免許状を取得した者は31名(社7, 英24)であった。また、教員就職状況は以下の通りである。

私立高校 男子1 女子1 (英)

公立中学 女子2 (英)

男子1 (社)

計 5名

## 4. ひ と の う ご き

### ■新任・就任・辞任

- 石本 菅生講師（計算機科学）：72年5月より着任。  
 渡辺 良助手（非常勤）（視聴覚教育）：72年4月より着任。  
 佐賀 啓男助手（非常勤）（視聴覚教育）：72年4月より着任。  
 水上 博雅助手（非常勤）（教育哲学）：72年4月より着任。  
 小島 軍造教授（教育哲学）：72年4月より客員教授に就任。  
 布留 武郎教授（視聴覚教育）：72年4月より大学院教授に就任。  
 古畑 和孝準教授（教育心理）：72年4月より教授に就任。  
 星野 命準教授（教育心理）：72年4月より教授に就任。  
 デューク・ベン・C. 準教授（比較教育）：72年4月より教授に就任。  
 生田 孝至助手（視聴覚教育）：73年3月退任。  
 安原 実助手（非常勤）（教育哲学）：73年3月退任。  
 水上 博雅助手（非常勤）（教育哲学）：73年3月退任。  
 新城 岩夫助手（非常勤）（視聴覚教育）：73年3月退任。  
 高木 節子秘書：73年3月退職。

### ■海外出張・帰任・休職

- 星野 命準教授（教育心理学）：72年1月より6月迄、フィリッピン、ケソン市、アテネオ・デ・マニラ大学、日本研究講座主任として出張。  
 中野 照海準教授（視聴覚教育）71年12月6日より Division of Educational Media, Methods, and Techniques, Department of School and Higher Education, Unesco に Chief of the Educational Technology Section として勤務のため休職。  
 古畑 和孝教授（教育心理学）：72年9月より73年3月迄休暇。  
 讃岐 和家教授（教育哲学）：72年9月より73年3月迄休暇。